



年 組 名前

# 道新でワークシート

## 増えるバス通学 放課後活動に影響

### 道内町村部、主要12市でも

7月中旬の朝、江別市の北東部にある江陽中の前に、赤色のスクールバスが横付けされた。降りてきたのは1〜3年生48人。3年の渡部真人さん(15)は「エアコンが効いていて夏も冬も快適」と笑顔を見せた。

同市教委によると、市立小中学校のうち、スクールバスを運行しているのは同中だけ。バス通学の生徒たちは、学校から直線距離で約4・6km離れたJR豊幌駅周辺の田園地帯に住んでいる。一番長い生徒の乗車時間は約30分。1年の次男をバスで通わせる同校PTA会長の鶴見栄晋さん(37)は「交通事故や悪天候時の心配がなく、徒歩やJRより安心」と話す。

12市の市教委によると、バス通学は徐々に広がっている。選択制の小規模特認校を除いて室蘭市は本年度、小中学生約4700人の3割がバスで通学している。室蘭市は突出して多いが、

小樽市でも7・5%、札幌市では1%がバス通学生だ。

背景にあるのは人口減少や施設の老朽化に伴う小中学校の統廃合だ。文部科学省の学校基本調査によると、道内の小中学校数は1962年度の3689校をピークに減少を続け、2021年度は57・6%減の1563校。道教委によると、小学校と中学校が各1校ずつしかない自治体は道内で48市町村ある。小中一貫の「義務教育学校」1校だけの自治体も1市1町ある。

統廃合の影響で校区が広がり、バスを中心とする公共交通機関を使った通学が増えている。児童生徒の約8割がバスで通学する自治体もある。

バス通学について児童生徒はどう思っているのか。江陽中の3年の女子生徒は「バスを逃したら終わり。本当はもっと学校で友達とゆっくりしゃべりたい」と話す。この他にも、運

## 統廃合で遠距離化 運行に工夫必要

動部に所属する生徒が遅くまで練習できなかったり、放課後に友達と遊びづらくなったりしたという声もある。

12市では、北見市の一部を除き、バス通学の費用を全額市が負担している。ただ対象者が増加することで、今後も費用負担が続くか懸念する声もある。土曜の部活動の際にはスクールバスが運行されず、保護者の送り迎えが必要な地域もある。

北海道教育大釧路校の川前あゆみ教授(へき地教育)は「今後子どもへの減少は進む上、校舎の建て替え時期が近づき、町村部以外でも統廃合は進むだろう」と分析。福祉バスとスクールバスを組み合わせるとコミュニケーションバスとして運行することや、バスの乗車時間が長くないように運行ルートを増やすことなどを検討する必要性を指摘する。「子どもたちの教育環境をどう整備するか、まちづくりの一環として考える必要がある」としている。

2022年8月1日(月)朝刊 全道版 15ページ(記事は再編集しています)

①道内の公立小中学校のバス通学が徐々に広がっている理由を2点読み取って書きなさい。

・  
・

②スクールバスの運行のメリットとデメリットは何か、読み取りなさい。

メリット:

デメリット:

③今後、小中学校の統廃合が進んでいく可能性がある。子ども達の教育環境をどう整備すべきか、あなたの考えを書きなさい。